

AKITA Biz Forest

あきたBizフォレスト TOPインタビュー

TOP INTERVIEW

インターフェイス株式会社
代表取締役 野澤 一美 氏

1992年、5年間OLとして働いた後、留学のため渡米。テキサス州立大学に通いながら臨床試験受託機関に10年以上勤務、その後コンサルタントとして独立。美肌が際立つ地域性をもつ秋田に着目し、2006年起業のため秋田に移住。同年、化粧品や日用品などの臨床試験を行うインターフェイス株式会社を設立。創業以来、秋田の美しい肌を求める国内外の化粧品メーカー・製薬会社から試験の依頼が絶えない。2011年プロクター・アンド・ギャンブル(P&G)社ベストパートナー・アワード受賞。2015年中小企業振興表彰、2017年変身大賞受賞、2020年先輩起業家表彰、2021年2月、東北ニュービジネス大賞受賞。同年12月、ニッポン新事業創出大賞特別賞受賞。

頑張れば認められる 頑張れば報われる 充実感と達成感

工藤 お生まれになったのは埼玉の長瀬とお聞きました。

野澤 そうですね、小学校まで片道2キロ。山をひとつ越え、友達と桑の実を食べたり、途中の湧き水を飲んだり、川で泳いだりと、のどかな田舎生活を送っていました。

工藤 想像以上でした。笑。ちなみに学生時代はどんな生活を？

野澤 小中学校の頃はひたすら勉強していましたが、その後燃え尽き症候群で高校時代はまったく勉強しなかったです。休みに友人とツーリングに行ったことなどはよく覚えています。その後短大を卒業しパブルのまっただ中で不動産金融の会社にOLとして就職しましたが、事務や営業補助が担当で、5年くらい務めました。仕事がつまらないと感じていました。大学生の頃からハリウッド映画が好きで、アメリカに住みたい、海外留学も興味があり、思い切ってアメリカ行きを決断しました。

工藤 仕事でというよりは、語学留学でアメリカへ渡った感じでしょか？

野澤 そうですね。語学を学ばなければ向こうの大学にも入れないので、アメリカで語学学校に入ってビザを取得し、長期滞在する方法をとり15年くらいアメリカに居ました。

工藤 英語を学ぶだけにしては長いですね。

野澤 向こうでは働きまして結婚もしました。私の性格がアメリカ生活にマッチしていたのかもしれない。アメリカの語学学校で

は1ヶ月目から先生に「あなたは本当に素晴らしい人ね」と褒められたり、日本人が学校に入って来たら「まずあなたを紹介したい」と気に入られたり、日本にいる頃は結構嫌われるタイプだったのですが(苦笑)、アメリカだと凄いいね!と言われたり勉強も頑張ると周囲から想像以上に称賛されたり、アメリカの短大に入る事が出来た時も「この学力があって医者にならないのか」と言われて驚いたり。アメリカで頑張るとすごく認められるのを感じました。頑張れば報われる所でした。その居心地がよかったのかも!?

工藤 さすがです。ところでアメリカは広いですがどの辺で生活を？

野澤 テキサス州のダラスです。短大時代の交換留学先のホストファミリーがダラスでした。当時のホストシスターに連絡したら喜んでくれて1年間お世話になりました。静かで日本人も少なく学費も安く、勉強するには最適な留学先でした。

工藤 15年いた中で語学の勉強もしつつ、ビジネスも学んでいたんですね。

野澤 親には頼れなかったため、退職金を握りしめて渡米しましたが、そのうちお金がたりなくなりアルバイトをはじめました。当時のアルバイト先が今やっている化粧品の臨床試験を行う会社でした。アメリカのメーカーさんが日本進出のため日本人をダラスで集めたいという話からお声掛けいただいた仕事で、その仕事がすごく楽しくて、

今もずっとその仕事を続けています。

工藤 はるか遠いアメリカの地で天職に出会う。縁というか運命というか人生は面白いものですね。何がきっかけで日本に戻られたのですか？

野澤 やはりもっと自分で思いっきりやりたいなって思いました。アメリカで独立してコンサルタントになり、そこで会社も立ち上げました。今でも会社は継続していて、アシスタントさんが日本を拠点に主力でやっています。当時は主に日本のクライアントさんの化粧品をアメリカでテストする仲介をしていましたが、もっとクライアントさんが100%満足できることをやりたいと感じていたころ、日本の企業さんから、日本も法律が改正になり、野澤さんがやっている事業は日本でもきっと需要が高まると言われました。そんな時アメリカに遊びに来た秋田市役所勤めの友人が、きっと秋田ならすぐできる。オフィスだって県庁内で開けるし補助金も出る。と言われるがまま秋田を訪問し、その後はトントン拍子に話が進んでいき、秋田での生活と事業がはじまりました。

工藤 17年を振り返ってみていかがですか？

野澤 最初の4~5年はとにかく目の前のことに少数精鋭のスタッフ達と毎日一緒にひたすら朝から夜中まで働いていました。色々なことがありましたが、今思うととにかく楽しかったです。今はここでアルバイトさんを

あきたBIZフォレストTOPインタビューは、秋田の起業家と企業環境を応援することを宣言いただいた100名以上の経営者の皆様を中心に、起業家に役立つ話題と起業家へのメッセージを対談形式でまとめたものです。

入れると30人位で頑張っています。

工藤 現在社会環境としては色々ある訳ですが、その中で野澤さんがやられている事業への影響を感じることはございますか？

野澤 私たちの事業は、幸い昨今の社会的逆風になりがちなコロナや円安やインフレなどからあまり大きな影響を受けていないのですが、法改正には常に敏感です。この試験方法はNGとか、この手法では許可できないなどが生じると事業そのものの根幹に影響する場合もあるのでそのリスクを分散できる事業も立ち上げなければという危機感があります。

工藤 なるほど。他に今の会社の課題感などはございますか？

野澤 工藤さんの名刺にも書かれている、従業員の「働きがい」を高めること。でしょうか、またそのために会社のミッションやビジョンをどう浸透させていくか？自分は仕事が好きで、仕事がやりたいけれど、今は昔と違って24時間仕事をする、という社会ではないので、どうやって自分の考えを今の社会の流れに沿わせていくのか？従業員の働きがいをより高めるにはどうすべきか？が課題だと思っています。

工藤 私もし仕事が好きで、時間が許されるだけやっていたいですが、社会的には

そうはいかないので、、ただその中で少しでも高い充実感や達成感を感じながら、高い働きがいをもって仕事ができる人がもっと増えたらいいですね。ひとつには、野澤さんがアメリカで経験した、頑張れば認められる「評価」もそのひとつですね。またそこに「誇り」や「推進性」というものが重なるときっとより働きがいも高まると思います。いつでもご相談ください。笑。

野澤 ぜひ。もうひとつ継続的にモニターさんに集まっていたくのは我が社の生命線の一つなのですが、昨今、その課題解決への取り組みを推進中ですが、やはり秋田は人口が少なく、仙台や東京などにも追加拠点を置かないと事業拡大が難しいと感じています。その中でこの会社のことを大好きになってくれる人材、全ての事を楽しんでやりたいと思ってくれる人材に出会いたいと思っています。

工藤 やはり最後は人ですね。さて秋田を

拠点として起業やビジネスをしていく上で、メリットに感じていることはありますか？

野澤 秋田で起業するメリットはすごく沢山あります。東京だったら誰かが起業しても誰にも注目されない。秋田はメディアにも取り上げられやすい。また秋田ですとみんな知り合いだからすぐに繋がりができて人脈も一気に広がります。東京にいたら知り会えなかったすごい人にも繋がったりするチャンスも巡ってきます。

エクササイズもお酒も

20年以上前からスタジオエクササイズをやっているという野澤さん。今はボディコンバットという格闘技系エクササイズにはまっているそうです。大きな音楽に合わせてエアキックやパンチをして身体を動かすそうです。美味しいお酒を大好きな人達と飲むことも欠かさずされているようです。

本日は貴重なお時間とお話しを本当に有難う御財増した。

インタビュー

合同会社ジェグルス(共同事業体ジェイワン) アントレプレナーコンシェルジュ 工藤 実

ライター J-MOTHER'S 長内 ゆかり

企画 共同事業体ジェイワン(秋田市ビジネススタートアップ支援事業)



※撮影のために一時的にマスクを外しています。